

# 建設情報 *Iwate*

## 認定こども園を新築整備

### 学校法人 樋下建設の設計・施工で 川村学園 樋下建設の設計・施工で

学校法人川村学園(川村春男理事長)は、盛岡市下飯岡に「学校法人川村学園幼保連携型認定こども園二葉幼稚園」を建設する。設計・施工は、樋下建設が担当。21年4月の開園を目指し、工事が進められていく。

園舎の規模は、木造平屋建てで、床面積は855.84平方メートル。コの字型の園舎で、中央に園庭を配置。園児用通路の園庭側はガラス張りとし、建物の外観は白く明るい感じとする計画だ。

木の質感が分かるような内装とする方針。ランチルームの外にウッドデッキを設け、外でも食事ができるようにしている。

7日には、新築工事の地鎮祭を開催。今後、23日から工事が本格

化。工期は、21年3月末までを予定している。

川村理事長は「園の教育の3本の柱とともに、知育・徳育・体育・食育のバランスを考えながら取り組んでいきたい。遊ぶことは、子どもたちにとって非常に大切なこと。広い園内で思う存分体を動かし、さまざまな感性などを身に付けてほしい」と話している。

現場代理人を務める千田信之さんは「子ども

ニュースのお知らせ  
〒020-0015 盛岡市本町通3-9-33  
本社編集部へ  
TEL (019) 623-8201  
FAX (019) 623-8204



くわ入れをする川村理事長



二葉幼稚園の建設予定地

## 上堰幹線用水路ゲート他製作を公告

＝和賀中央農業水利事業所＝

## 県企業局 汚泥脱水機の更新電機設備を公告

## 堀内地区の漁村再生防波堤など6件公告

＝宮古市契約官財課・条件付＝

## 道路災害復旧など公告

＝釜石市財政課・条件付＝



県盛岡広域振興局農政部  
県盛岡広域振興局農政部農村整備室は8日付で、企画競争の農地整備事業(経営体育成型)武道地

区第5号工事を公告した。申請期限は23日17時。  
▽農地整備事業(経営体育成型)武道地区第5号工事  
施行地 盛岡市芋田内  
工期 2021年5月31日まで  
工事内容 工事は、ほ場の排水不良を改善するため、暗渠排水工

事を行うもの。暗渠排水工A＝15.2ha、補助暗渠工A＝15.2ha  
応募資格 2019・20年度県営建設工事競争入札参加資格者名簿の土木工事B級に登録されている者で、岩手県内に主たる営業所(建設業法(昭和24年法律第100号)第7条における営業業務の管理責任者を置く営業所)を有すること、または公益社団法人(公益社団法人および公益財団法人の認定等に関する法律(平成18年法律第49号)第2条第1項第1号に規定される法人)もしくは特例社団法人(一般社団法人および一般財団法人に関する法律および公益社団法人および公益財団法人の認定等に関する法律)の施行に伴う関係(7面へつづく)

## 2路線の歩道新設に着工

### 瀨台野高根線と池田住宅線 10日に初弾を入札へ

奥州市は、市道瀨台野高根線、市道池田住宅線で計画する歩道新設について、いずれも今年度から工事をスタートする構えだ。初弾の工事が10日に入札予定。歩行者の交通安全を図るため、計画的に施工を展開していく。(関連7面)

瀨台野高根線では、1.1キロ区間の歩道新設を計画。現道の幅員が6.0～6.5メートルで、現在の道路敷地を利用するとともに、個所によっては用地取得も行い、歩道を設置する。設置する歩道は西側で、幅員として2.5メートルを予定している。総事業費に2億3000万円を見込む。

同路線には、歩道が設置されている箇所もあるものの、今回事業を計画した区間に関しては、歩道が未設置の状況にある。水沢競馬場方面へのアクセス道などとして利用されるなど交通量が多く、真城小児童の通学路にも位置付けられ、歩道が未整備のため、歩道の新設を計画する。

事業区間は、瀨台野高根線の歩道が途切れている箇所からで、J A岩手ふるさとの水沢野菜集出荷場の辺りから南側となる。

今回入札する「瀨台野高根線歩道新設その1工事、瀨台野高根線歩道新設その2工事(合冊)」は、施工箇所が大きく3カ所に分かれる。合計で250メートル程度の延長で、沿線に住居が立地する箇所を優先的に進めていくこ



歩道新設に着工する瀨台野高根線

ととしている。

◇ 池田住宅線は、主要地方道花巻衣川線との接続地点から740メートルの区間を歩道新設の範囲とする。西側に幅員2～2.5メートル程度の歩道を設置することを検討している。現段階で、総事業費に約2億円を想定している。

池田住宅線は、衣里小児童の通学路などとして利用されている。一方で現道には歩道が設置されておらず、全幅も4～5メートル程度と狭い。児童の登下校と車両の交通量の多い時間帯とが、重なる状況となっている。

地元などからは、歩道設置を求める要望が出されている。各小学校、道路管理者や警察とで実施した合同点検の結果も踏まえて、児童の安全面を考慮して歩道を新設することとした。

10日には、「池田住宅線歩道新設その1工事、池田住宅線歩道新設その2工事(合冊)」を入札予定。花巻衣川線側から500～600メートル程度の区間を施工する。21年度で残る区間を施工して、事業を完了したいとしている。

**けんせつ女子大募集!**

「スマイル☆けんせつ女子部」に登場していただける方を募集しています。年齢や経験年数などは問いません。詳しくは編集部まで。→ TEL 019-623-8201(代表)

## いわて防災学教室

災害から学び、災害に備える



### 「強震モニタ」の紹介

岩手大学理工学部システム創成工学科准教授 山本 英和

強震モニタは、国立研究開発法人防災科学技術研究所が全国の強震観測網の地震計で観測した今現在の揺れを、そのままに近いかたちで配信しているWebサービスです。強震観測網は、K-NET(全国強震観測網、全国に約1000カ所)とKiK-net(基盤強震観測網、全国に約700カ所)からなる強い揺れを記録するための地震計のネットワークです。

そもそも、地震計自体は地面の振動を測定する装置です。ただ、地震が起きた時に発生するP波やS波などの地震波は水の波と同じような「波動」です。強震モニタは、多数の地点に配置された地震計で地震による振動を同時に測定し、パソコンなどのモニタの画面に揺れの大きさを色の違いでリアルタイムに表示することにより、地震の揺れを「波動」として時間変化を表現するサービスだと思ってください。

強震モニタは、「最大加速度」や「リアルタイム震度」といったデータを、揺れの大きさに応じて青から赤の点で地図上に表示し2秒毎に更新することで、動画として地震の揺れの伝わる様子が直感的に理解できるように工夫されています。青や濃い緑で表される揺れは人間には分からないほど微弱ですが、黄緑程度から人間に感じられる揺れとなり、橙から赤に近づくほど強い揺れになります。

通常時の強震モニタは「リアルタイム震度」が表示されています。リアルタイム震度とは地震の揺れの大きさを表す震度の時間変化を表示する指標です。通常、我々が見聞きする震度は地震時のある場所の揺れの最大の大きさを示しているのですが、リアルタイム震度はその時点での揺れで震度を計算し直しています。ただし、実際の揺れ揺れが急激に小さくなったとしてもリアルタイム震度は1分程度は大きな値を示しますのでご注意ください。また、「最大加速度」の表示にしておく、ほぼリアルタイムに揺れの大きさが表示され更新されます。

この強震モニタを常日頃からブラウザに表示させてまましておくと、自分が今いる場所が揺れる前

に、モニタで地震の発生を確認できることがあります。普段、見ようと思ってもなかなか有感地震に出くわすことはないです。ただし、ごく稀に、モニタを見ているときに地震がどこかで発生することがあります。ある場所で大きな地震の揺れが起ると、同心円状に周囲に着色された領域が広がっていくことを見ることもできます。(残念ながら、なかなか見られるものではありません)強震モニタが地震波到着の予想をしてくれるので自分のいる場所の揺れと予想の一致の程度を確認することもできます。インターネットの掲示板でも「強震モニタを見守るスレッド」があり、ちまたではひそかなブームになっている噂もあります。

最近ではYahooの天気・災害のサイトでも地震情報の中にリアルタイム震度が表示されています。もともとのデータは防災科学技術研究所の強震モニタです。着色の仕方がYahooと強震モニタで若干異なっていますので注意が必要です。スマートフォンでもサードパーティーですが強震モニタのアプリがありますので、屋外で地震に遭遇した時パソコンを持っていなくても現在の地震の揺れの状況を確認できます。また、Google chromeの強震モニタExtensionを導入しておく、ブラウザを立ち上げていなくても地震が発生すると自動的に揺れの情報を教えてくれます。興味を持たれた方は、パソコンでもスマホでも良いので、ぜひ試してみてください。

(参考)  
強震観測網(強震モニタへのリンクがあります)  
<https://www.kyoshin.bosai.go.jp/kyoshin/>  
強震モニタの概要  
[https://www.kyoshin.bosai.go.jp/kyoshin/docs/new\\_kyoshinmonitor.html](https://www.kyoshin.bosai.go.jp/kyoshin/docs/new_kyoshinmonitor.html)

※いわて防災学教室のバックナンバーは、岩手大学地域防災研究センターのホームページ「公開情報」で閲覧できます。



実証 スマートコンストラクション。

3Dデータで、建設機械と現場と人をつなぐ。経験の浅いオペレータが、整地に挑んだ。現場の仕事は、どこまで変わるのか。

これまでない現場も、これからは現場も、SMART CONSTRUCTION  
[スマートコンストラクション]を視覚します。  
<http://smartconstruction.komatsu.co.jp/>  
スマートコンストラクション

コマツの試験場で、ある実験が行われた。稼働1年7ヶ月の古いオペレータに、水害をイメージした大雨や暴風に挑んでもらう。実は彼らには新しいオペレータのスキルを、スマートコンストラクションというICTソリューションで、ICTソリューションが、土を運び出した。指示データが、すでにインポートされている古いオペレータの仕事は、黄色い車体を前後に動かすだけでいい。そう、機械がほぼ自動で作業を進めてくれる。油圧シリンダは、滑らかな手の甲を器用に使い、法面の斜めのラインを覚えていく。本来なら、オペレータにしかできない領域、とても経験の浅い者にはできない。結果は、この通り。いま大きく変わる現場の常識が、いま大きく変わりはじめている。